

龍谷顕真会会報

も く じ

2006 (平成18) 年度 会員活動報告	2~4
龍谷顕真会『総会記念講演』講演録	5~11
龍谷顕真会『第14回海外視察』開催報告	12~15
藤谷光信代表世話人挨拶	16
2006 (平成18) 年度 事業報告・会員動静	
寄贈誌のご紹介・事務局より	17~18



『第14回海外視察』ソウルにて

二〇〇六(平成十八)年度 会員活動報告

普通会員三十三名のうち六名より「活動報告書」の提出がありました。

なお、無記入箇所は掲載いたしておりません。

四月の選挙に市長を決めるために努力をしている最中です。札幌市の長期発展の為に

- ① 議会役職
- ② 所属委員会および役職
- ③ 地域団体役職
- ④ 所属党派・役職
- ⑤ 本年度の取り組みについて

柴田 薫心 札幌市議

北海道・札幌・宝流寺前住職

① 顧問

② 文教委員会と税財政特別委員会

③ 各町内会等の顧問

④ 自由民主党、道連副会長、札幌常任顧問

⑤ 野党になってしまった私達(二十五名)は

上野 正之

小樽市議

北海道・後志・真正寺住職

亀井 義昭

中川町長

北海道・上川北・極楽寺衆徒

谷口 隆徳

士別市議

北海道・上川北・常德寺住職

芳滝 仁

幕別町議

北海道・十勝・顕勝寺住職

花木 肇正

元大島町議

高岡・射水・称念寺住職

嶋田 政憲

勝山市議

福井・福井・本覚寺衆徒

井上 馨

勝山市議

福井・円陵・嚴教寺衆徒

横山 善道

山県市議

岐阜・黒野・金證寺住職

寺本 克磨

川越町議

東海・朝明・法雲寺衆徒

① 議長

② 教育民生常任委員長

③ 社会福祉協議会理事、ごみ対策委員、議会運営委員会委員、富洲原駅環境整備特別委員会委員

④ 議会活動の活性化、教育問題(特に中学校給食問題の推進)、高齢者福祉問題全般について改善要求活動

山田 眞澄 東員町議

水源対策

藤谷 光信 山口県議

東海・員弁・浄源寺前住職

山口・岩国・教蓮寺前住職

①常任委員長

山本 隆俊

茨木市議

②教育民生常任委員会、議会運営委員会

大阪・茨木東・称名寺住職

米沢 痴達 周南市議

③無所属

④合併しない方針できました。財政がきびしいので、それに対応できる行政に改めてい

和田 秀教

和歌山市議

かなければならない。住民へのサービスを

和歌山・和歌山北・正光寺衆

島田 明 山口県議

下げないで行いたいと考えています

徒

山口・防府・善正寺住職

波多 正文

尼崎市議

①議長

大塚 泰雄 高島市議

兵庫・阪神南・正光寺住職

②総務企画委員会委員

滋賀・高島・通安寺住職

谷川 正秀

尼崎市議

府滋光会理事長

黒田 昭信 滋賀県議

兵庫・阪神西・万徳寺住職

③学校法人島田学園理事長、社会福祉法人防府滋光会理事長

滋賀・犬上南・教得寺住職

笹川 紹隆

元金城町議

④自由民主党・自由民主党山口県支部連合会常任顧問

②総務・政策常任委員会、経済対策特別委員会

山陰・福屋・浄光寺住職

⑤しまた明ホームページ
<http://www10.ocn.ne.jp/~akira-s/>

会

③資格障害者福祉協会顧問

大前 寛乗

坂出市議

弘中 正俊 防府市議

④自由民主党滋賀県連総務会長

四州・飯山北・善光寺住職

山口・防府・乗円寺住職

⑤経済対策、少子高齢化対策、森林・環境・

久保 玄爾

防府市議

谷川 通澄

柳川市議

山口・防府・信行寺住職

福岡・三門北・至徳寺住職

秋里 勝道

美東町議

傍示 暢昭

元佐賀市議

山口・美祢東・明楽寺住職

佐賀・巨瀬・正見寺住職

川越 正信

美祢市議

長嶺 興也

美里町長

山口・美祢西・西音寺衆徒

熊本・益南・善林寺住職

片山 隆昭

下関市議

崎田 要司

清武町議

山口・豊浦西・心光寺住職

宮崎・宮崎・長明寺住職

井上 隆純

下関市議

山口・豊浦西・正音寺住職

※市町村合併にともない、活動報告書提出時

と現役職が異なっている場合がございます

荒木 行也

みやま市議

が、標記役職は平成十九年三月現在のもの

福岡・三門南・阿弥陀寺住職

です。

②総務文教常任委員会

龍谷顕真会役員

代表世話人

藤谷 光信 (山口県議)

世話人

第一ブロック〈北海道・和歌山〉

山田 眞澄 (東員町議)

大塚 泰雄 (高島市議)

山本 隆俊 (茨木市議)

第二ブロック〈兵庫・山口〉

竺川 紹隆 (元金城町議)

秋里 勝道 (美東町議)

第三ブロック〈九州〉

荒木 行也 (みやま市議)

傍示 暢昭 (元佐賀市議)

会計監査員

柴田 薫心 (札幌市議)

花木 肇正 (元大島町議)

龍谷頭真会総会記念講演

開催日 二〇〇六(平成十八)年五月十九日(金)十六時から十七時三〇分

講師 元南米開教総長・司教・行信教校講師

大阪教区 東住吉組 慈光寺 住職 高田 慈昭 師

内容 海外開教について、南米を中心として

ただ今ご紹介いただきました、高田でございます。二十五年ぐらい前になりますが、私は特派布教使としてハワイに行き、それから北米、カナダと、行かせていただいております。その後、平成三(一九九一)年から平成七(一九九五)年まで任期四年で、南米の開教総長、ならびにサンパウロ別院の輪番も兼ねて務めてまいりました。帰りました、もう十年になります。

ブラジルというところ

ブラジルという国は、日本から飛行機で片道二十四時間かかります。時差がちょうど十二時間ございますから、日本とは昼と夜が、また夏と冬がまったく正反対です。だいたい日本の二十三倍という広い国で、

南北約四千四百キロメートル、東西約四千三百キロメートルあります。隣のお寺に行くにも、約五十キロから百キロ走らないといけない。しょっちゅう五百キロ、六百キロというところは車で行ったわけでございます。例えばブラリアというブラジルの首都があります。そこに本願寺の立派な本堂が、日本建築の様式で建っています。それもサンパウロから一千十五キロです。一千キロを超えますと飛行機にしてみらえますが、国内旅行の旅費が非常に高いから、ほとんどは車で回ります。

ブラジルといいますと、コーヒーとサンバとサッカーの国、また、暑いところだと思われるでしょう。アマゾンの北の方は暑いですね。これが南のほうへ行きますと雪が降って、場所によって季節も非常にまち

まちでございます。

私がいたサンパウロ州というのは、だいたい日本の本州が全部入るぐらいの州で、一番気候のいいところですよ。日本の奄美大島ぐらいの気候でしょうか。冬は少し寒いときもあります。しかし、梅雨はないし、台風はないし、地震もないし、わりあい気候のいいところでした。そこに日系人が一番たくさん住んでいます。

十六世紀にポルトガルが国を発見しまして、先住民族を征服し、そしてポルトガルの植民地をつくったわけです。ですから、現在でも言語はポルトガル語でございます。南米はメキシコから南はほとんどがスペイン語ですが、ブラジルだけがポルトガル語でございます。ですから、英語はあまり一般には通じません。しかし大きな会議や国際会議では通訳が使用されます。

日系人は、一世のほとんどは日本語です。二世は半分日本語、半分ポルトガル語。家へ帰ったら親が日本語を話していますが、外へ出たら日本語はしゃべりませんから、ポルトガル語です。三世になってきますと、ほとんど日本語はわかりません。日本語

学校があちらこちらにございますので、そういうところで習った人は日本語ができませんけれども。

ブラジルはアメリカと同じように移民国です。例えば、ポルトガル系、スペイン系、それからドイツ系、イギリス、フランス、イタリア、いろいろな民族があります。それから中近東のイラン、イラク、これも来ております。それからアメリカ。アジアでは、日系以外にも中国人や韓国人がおります。しかし、統一した言葉はポルトガル語です。ところが、みんなそれぞれ自分のナショナルリズムといいますが、祖国の言葉を大切に、伝統文化を大切にしているのです。ですから日系人も、家に帰ったらほとんど日本語です。

南米教団の沿革

ブラジルには明治四十一年に神戸から笠戸丸で最初の移民が行きました。最初の移民は七百八十一人。二〇〇八年には百周年の大きなイベントが予定されており、ご門主もご巡教に行かれるということです。私

がおりましたときにも、ご巡教に来ていただきました。

そして今は二世、三世、四世、五世、六世の赤ちゃんもいる。二世以下になりますと、異民族と結婚しますから混血です。そういうものを含めると、日系人が今、百二十万人から百三十万人ぐらいいるそうです。

サンパウロの別院でも、土曜・日曜になりますと、その人たちがたくさん来るのです。向こうは門徒の家で法事をあまりやりませんから、みんな別院に来るのです。一、三人で来る人から、百人ぐらいの親戚郎党を連れて来る人もいます。今は、多いときでだいたい三十組から四十組、日曜日一日で来るので、別院の坊さんは、きりきり舞いなのです。一度に五つぐらいの仏間が必要で。本堂だけではできませんから。

そして集まってくる人たちの顔ぶれを見たら、白人もいるし、黒人も混血もたくさんいるのです。

サンパウロの別院の中で、一回でも本堂に座って、阿弥陀さんの前でお参りする、あるいは行事でお参りする人数は、年間延べ十万人ぐらいです。ですから日曜日のこ

ういうセミナーでは、境内は車で満杯で歩けないぐらいです。

宗教はカトリックの国です。仏教が公認されたのは第二次世界大戦以後です。それまで日系人は、みんな非公式にやっていた。それで第二次世界大戦が終わってから、国連憲章に基づいて、先進国はみな信教の自由を認めたということで、一斉にカトリック以外の宗教が公認されたのです。それから待ってましたとばかりに、サンパウロの日系人が早速、仏教会の組織をつくりました。そしてお金を出し合って寺を建てたのです。

そのお寺が、今のサンパウロの別院です。これは立派なものです。レンガ造りの、築地本願寺を少し小さくしたような立派なものです。日本から行った宗教、新興宗教も進出していますが、サンパウロの本願寺の別院は最高です。そしてそこを中心に、サンパウロ州、それからそのほかの州。だいたい、北はアマゾンから南はアルゼンチンまで、五十五カ所の本願寺の寺があります。

組織―本部と各教線・護持会・仏婦―

護持会、仏教婦人会、仏教壮年会、仏教青年会、そのような団体がいくつもあります。特に仏教婦人会は、年に一回大会を行います。一千人以上が集まります。場所はいろいろと変わりますが、その町は日系人の仏教婦人会であふれ、ホテルが満杯になります。そのときにはみな、遠いところから集まってきた、久しぶりだねと抱き合って語っている。そういうことを私も四回体験しました。

その次に大きいのは仏教壮年会です。これは多いときは五百人ぐらい、少ないときは三百人ぐらいが集まり、これも年に一回輪番制で各地の寺が開催します。

それから、仏教青年会。これは二世から三世、四世ぐらいの若者です。これも年に一回、人数は多いときは百五十人ぐらい、少ないときは百人ぐらいです。

向こうの教団の組織体制というものは、アメリカやカナダやハワイと違います。アメリカやハワイは本部の理事会の制度です。ハワイは本願寺、アメリカは仏教会、ブラ

ジルも〇〇本願寺といっています。仏教会という名前を付けるのは、アメリカとカナダです。どうして本願寺という名称が付けられなかったのか、私もちょっとわかりません。

向こうはみな、各仏教会、あるいは各お寺のなかに理事会の支部があり、理事がいて、理事長がいる。その会計や運営は、全部理事会で管理運営がなされています。そして開教使の給料、これらもみな、理事会の承認を得て、理事会から給料を渡している。

それがブラジルはそうではないのです。そこはちょっと遅れているということでございます。理事会制度はないのです。各寺にはみな護持会があります。護持会というのはお寺そのものの運営をしますけれども、開教使の給料や生活はまったく別です。それは開教使が自分でお布施をもらって、そのお布施でやっています。

そうしますと、格差が出てくるのです。大きい寺の開教使は、門徒が多いです。小さい寺だと少ないので、お布施の量が少ないのです。ですから、経済的な格差が非常にあります。開教使の生活保障は大きな問題で

す。アメリカやハワイでも、開教使の老後の、リタイアしたあとの生活をどのように保障していくかということは、大きな課題です。

仏教会の組織というのは、五つか六つの教線があります。いわゆる教区です。ソロカバナの教線とか、パウリスタ教線などがあり、その教線のなかにお寺があります。その代表が、いわゆる教団の代表幹事です。そして、年に一度、代表幹事が集まって教団の運営会計決算が審議され、総会で決議します。ここで代表の幹事が選ばれます。

それは最初の一回だけです。普通はその前に開教使会議があります。開教使が全員集まる前に開教使の幹事会があり、その中で基本的な事項を決定し、その後、開教使が全員集まり開教使だけの総会を開き、行事運営の会計、予算・決算を決定します。そして、その後、門徒代表の幹事と相談します。だから、開教使は権限を持っています。護持会の人も、幹事総会でも「われわれがものを言っても、結局は、お寺さんが、開教使の先生たちがだいたい決めておられるからな」というようなもので、弱いので

す。それは、教団を支えていく、あるいは教団の伝統行事をやっていく上で大きな問題の一つだと思っています。

開教使

—言語問題・生活・教学・伝道布教—

もうひとつの問題は開教使の質ですね。

今、日本から、古い仏教の各宗派が全部来ているのです。何といっても本願寺派が圧倒的に多いのは事実です。お東は少ないです。それから禅宗、真言宗、日蓮宗があります。しかし微々たるものです。浄土宗は一つあります。浄土宗の開教総長はやり手です。社会福祉施設、老人ホームなどの施設を一所懸命つくって活動しています。

それから、新興宗教の一番大きいのは生長の家です。それから霊友会、創価学会、立正佼成会です。ところが面白いことに、案外日本の新興宗教には日系人がわりと少ないのです。現地の他民族系の人たちが多く入会していますが、現世利益に引かれていろいろです。

問題点は、開教使の質と言動です。一番

の問題は言語ですね。

今、日本語というのは一世だけでございます。二世は普通の会話では、おおかた日本語ができます。しかし、読み書きはだめです。黒板に漢字を書いたら、わからないのです。

今はブラジルでも、日系人の二世、三世の坊さんが徐々に出てきています。まだ数人ですけれども。それから非日系人の坊さんもいます。ブラジルで私のときで六人いました。

日本から行く開教使というのは、やはり相当語学ができる人でなければだめですね。また、教学安心、これは基本です。いくら語学ができて、教学安心ができていなかったら教法は伝わらない。

そういえばブラジルでも、感想とか随想的な法話をする開教使がわりに多い。法話というのはご法義を伝えるものです。わかりやすくということは、何も言葉をわかりやすくというだけではないのであって、本当にご法義が理解できるように、受け入れられるようなお話をしていただきたい。何もお聖教のことばかり出すわけではないが、

感想文や随想だけではご法義は伝わらないと思われまふ。

したがって、開教使を日本から送る場合の、開教使の養成期間が短すぎるわけです。それと年齢制限であります。南米だけは五十歳以下、北米やカナダはみな大学を出て、一年間ぐらいずっと準備をして、三十歳未満となつていますが、とにかく年齢制限を廃止して、五十でも六十でも七十歳でもいい、五十歳、六十歳ぐらいのベテランの開教使の人たちに行つてほしい。そうでなければ伝わらない。若い人は、できる人もいるけれども、総体的には、やはり過不足がある。

ブラジルの開教使は約二十人います。それから開教使補というのがいるのです。それでも、アマゾンのほうに行ったら坊さんがいないから、在家の人になかで、お勤めが上手にできる人、そして仏教の話がはっきりとできる人を公募した法務使という制度があります。特別にその人たちに袈裟を与え、僧侶同等の資格を与えて説教をしてもらう。だから南米では開教使と開教使補合せて四十人ほどもです。それと法務使が十

人ぐらいです。それでもやはり足りません。肝心の教師の資格を持っている人が、うんと足りないのが実情です。

今は開教使を募集しても、なかなか海外開教に行く人は少ないのです。昔は海外へ行くといったら喜んで行ったものです。

『憧れのハワイ航路』なんて、私の若いころなんか飛んで行った。今はない。日本の若者は、たまに遊びに行くのならいいけれども、向こうでじっと何年もいなければいけないのは嫌だと。それは日本の環境がよくなってきたから、無理もないです。

そこで最近、ハワイとアメリカには学校をつくりました。ハワイは中学だけだったのを高校をつくりました。アメリカはサンフランシスコのカリフォルニア大学のあたりに、浄土真宗センターというのがありまして、あれを拡大して龍谷大学と提携し、現地で僧侶を養成することにしたのです。日本に來なくても、現地で勉強して開教使を養成する。その方面に今だんだんとなりつつあります。カナダでもそういう研究所があります。

新興宗教というのは、海外開教にどっと

お金を使います。そういうところはもって教団として配慮すべき所が多いと思います。海外開教の共通の問題は、そういったところに問題があります。

海外開教区の今後の課題

アメリカ人の興味は、まず座禅です。自分のこころを落ち着けて、静寂の境地に入る。浄土真宗は禅宗ではないから、座禅はやりません。教義面ではだめですけども、やはり私はやったらいいと思います。ただし、何も禅宗のような即身成仏とか、見性成仏というような座禅ではないですからね。

ブラジルでも、非日系の開教使（大学教授）がお説教をしたあとで、みんな一緒に瞑想するのです。「あなたはこういう気持ちでそれをやっているのですか」と聞いたら、「これは何も禅宗のまねをしているのではないですよ。これは今日のお話を、目を閉じてもう一度思い出して味わいましょうと。それから瞑想しているときに、仏教の聖典の言葉を朗読しています。そういう意味でやっているのです」と言われまして、

すごくいいことだと思いました。

ニューヨークの仏教会でも、座禅する座布団を並べ自由に入ってきて座禅しています。それは仏教の世界に入るきっかけになると思います。

最後に、今後、浄土真宗というのは案外ヨーロッパあたりに伝わるのではないかというような感じがします。ただし、ヨーロッパには、まだ本山の組織が入っていません。海外開教使も入っていない。もういい加減に組織づくりをしてはどうかと思うのですけれども、ヨーロッパの人はやはり困惑がある。ヨーロッパでは宗教戦争とかいうものがありますから、そういうことを充分勘案したうえで、近い将来、本願寺教団の組織内に入れてほしいものだと思います。そんなことを言いまして、だいたい時間を取りました。十分超過しましたので、このへんで終わります。どうもありがとうございました。

（講演終了）

質疑応答

○私は寺の住職をやるとともに、田舎のまちの町議会議員をやっています。私の村に、東洋ゴム工業というタイヤ工場があって、本社も来ているのですけれども、そこへブラジルからたくさん働きに来ているのです。独身の若い男の子もおりますし、奥さんや子どもを連れて来ている方もいます。

小学校や中学校の入学式や卒業式に行くと、カタカナの名前がたくさん出てくるようなところですが、そのみなさんとして、べつてみますと、やはり一所懸命働いて、お金を残したいという姿勢が非常に強い。贅沢をしないで、非常に質素な生活をしていらっしやいます。

ところが、先ほど先生がおっしゃった、日系人がサンパウロに百二十万、百三十万人いるという、そのすべてが浄土真宗の門信徒だったとは思いませんけれども、来ている方々としやべつてみますと、ほとんど仏教に関係ない。サンパウロに本願寺の別院が建ったとおっしゃったけれども、あの方々からそんなお金が出てくるわけがない

です。

本願寺のお金はどこから集めているのですか。そして、その集めたお金を出してくれる人が対象で、それも出せない方が教線から漏れているのではないかという感じがするのですけれども、そのへんのところを。

○高田 ブラジルからの出稼ぎというのは、多いときで三十万人いました。私のときは、門徒のなかに必ずと言っていいほど、家族の一人が出ていた。それぐらいの数の人が日本に出稼ぎをしていた。

たしかにおっしゃるように、厳しい生活をして、お金をためる。向こうでだいたい五万円の月収なら、同じ仕事を日本でやれば二十万の収入になりますから、そしてそれを一年間、二年間貯金して、百万、二百万の金を持ち帰ります。それが日本での、あの労働の状況です。

宗教教義ですと、私が思いますには、門徒さんのうちで日本に出稼ぎに行っているうちは全部調べました。綿密に、どこにいるかですね。特に浜松とか宇都宮、栃木県、静岡県、愛知県などが多いのです。そういう

うところはだいたい名簿をつくりますので、本山の国際部に届けまして、国際部のほうからそういう人たちに情報を送るのです。もし日本に来て困っていることがあったら、国際部のほうに連絡してくださいというようなことも。

それとブラジルという国はカトリックの国です。そうすると仏教徒、ブディストというのは、社会的なメリットは少ないのです。やはりクリスチャンになったほうが、社会的にメリットがある。これはアメリカでもカナダでも同じです。

そこへもってきて、ブラジルの公立の学校では、授業料は要らないが彼らの進学率が非常に悪い。そうすると日系人の子どもたちは警戒して、私立の学校へ行くのです。これはたくさんさんの学費がいります。

それから、一流のサンパウロ大学に入るまでに、また学費がいります。学費の要らない一流の大学に入るために、たくさんお金をかけて私立の小学校に行く。その私立の小学校というのは、大体がカトリック系の学校なのです。そして半強制的に洗礼を受けさせます。親は本願寺に参っている

仏教徒でありながら、子どもはカトリックが多い。

別院でも法事的时候会に参りますと、ポルトガル語で書いた法話を読んでくださいます。渡します。そうしたら「僕はカトリックですからいりません」と、はっきり言う者もおります。それでも私は言います。「あなた方はカトリックと言うけれども、カトリックを知っているのですか。あなた方は仏教の話を聞いたことがないだろう」「ない」「お父さんやお母さんがおまえたちに仏教を教えても全然知らずに、洗礼を受けたからカトリックだと言っているの。でも、カトリックの教義がわかっていのか」と言う、ほとんどわかっていない。

「宗教というのは、そんないい加減なものではない。おじいちゃんからお父さん、お母さん、みんながお念仏で育ってきた。あなただってそういう環境で育ってきたのだ。まず一番有縁の、縁の厚い、自分たちの仏教の教えを聞きなさい。そのうえで気に入らなければ、カトリックでも何でも行きなさい」と言いました。そうすると、「それなら一度読んでみます」と言って、

持ち帰っていききました。

そのように、向こうの社会的風潮はカトリックですから、日本の神社仏閣の比ではない。向こうは教会の国ですから、どの国に行っても、カトリック系統の教会がたくさんある。カトリックがあたりまえなのです。だから、第二次世界大戦が終わるまでは、ほかの宗教は公認されなかった。それぐらいのものですからね。

ですから、今おっしゃったことは、本願寺でも門徒の家庭から子どもたち、あるいは若い人に何とかして勧められて、出稼ぎの人に、もう一度名簿を再編集して、わかるところから少しずつ名簿づくりをして、そしてそういう人たちに日本の国際部から、それを採用して、そして送り出したらいいと思います。あなた方がいま勤めている会社の近所に本願寺のお寺がたくさんあるから、そのお寺へ参ってくださいというような案内を付けて出すように。それをもう一度やってもらわなければいけませんね。

それから、別院などを建立した人たちは当時の日系仏教会の門信徒たちの懇志でした。現代はブラジルの経済状況があまりよ

くないのです。でも、現在のブラジルの門信徒たちは元の本願寺を立派に維持運営して活動しています。

(終了)

一日 程一

日次	月 日	現地時間	内 容	場 所
1	1/29 (月)		到着後、ホテルへ チェックイン 夕 食 宿 泊	ソウル市内 ソウル泊
2	1/30 (火)	終日	朝 食 ソウル市内観光 (望郷の丘・韓国独立記念館 清溪川地区・インサドン) 夕 食 宿 泊	ホテル ソウル市内 ソウル市内 ソウル泊
3	1/31 (水)	午前 午後	朝 食 ソウル市内観光 (国立民族博物館・景福宮) 昼 食 東國大学校・曹溪宗訪問 KTX(新幹線)にて釜山へ 夕 食 宿 泊	ホテル ソウル市内 ソウル市内 釜山泊 釜山市内
4	2/ 1 (木)	終日	朝 食 慶州・釜山観光 (佛国寺・天馬窯・国立慶州 博物館) 夕 食(さよならパーティー) 宿 泊	ホテル 慶州・釜山市内 釜山市内 釜山泊
5	2/ 2 (金)	午前	朝 食 ホテル発	ホテル

『龍谷顕真会第十四回海外視察―韓国―』開催報告

開 催 日 二〇〇七(平成十九)年一月二十九日(月)～二月二日(金)
視 察 先 韓国(ソウル・慶州・釜山)
参 加 者 十名

海外視察レポート

「身構えた」私

賛助会員 窪田 享信

韓国へ出掛ける。いささか「身構え」ました。その身構えは、韓国だからというのではなく海外に出掛けようとする時、どの国でもしたはずでしたのに、「韓国だから」と、殊更、身構えたという思いは、昭和・一桁生れの私の中にあった「朝鮮」に対する偏見が、なお断ち切れていなかったことと、恥ずかしく思い、私の基幹運動を問い直す必要があることを感じさせられました。

いま、日本の韓国・中国・さらにアジア諸国に対する歴史認識が議論されています。韓国独立記念館で戦争と「差別」の恐ろしさが思い知らされます。そして日本は「加害者」でした。文禄・慶長の役、近くは韓国侵食の歴史が、言葉として表現されないものの、この身で感じられました。しかし、

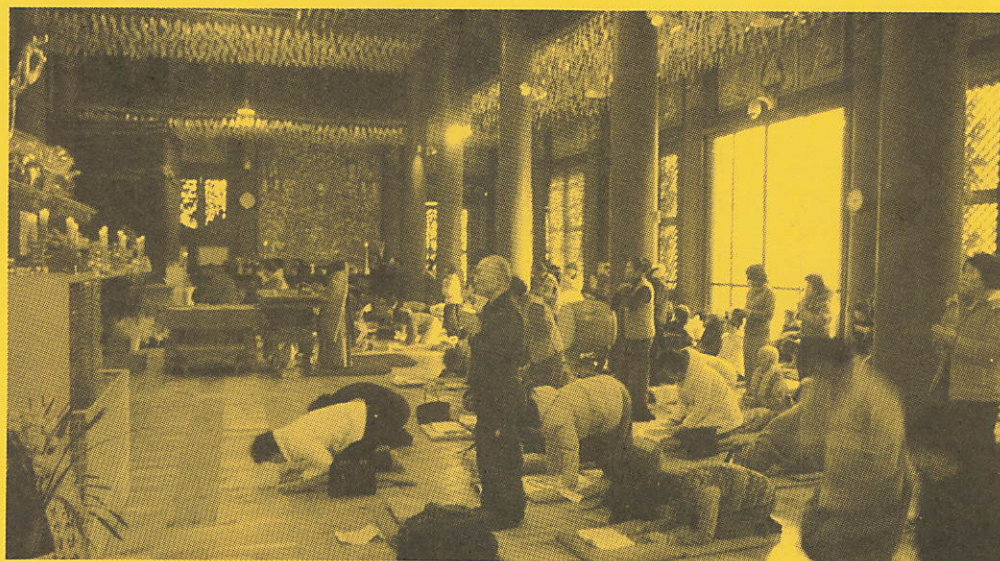
私の身構えの中味の一つであった「排日」の雰囲気を感じることはありませんでした。八車線の道路があり、自動車があふれ、高層住宅が林立する。さらに豪華なホテル。世界遺産に指定されている仏国寺は、その「門前町」を含めて充分に整備されている状況、市街はイルミネーションで明るく、商店街には沢山の人。韓国の活力を感じさせられたことでした。

古墳群に案内され、華麗な王朝の生活文化に触れ、日韓の歴史の中に朝鮮通信使があったことを忘れてはならないと思いました。

韓国の仏教、その殆んどが曹溪宗のようでした。「本堂」で、沢山の信者たちが、五体投地で礼拝し、また、一人の僧侶の声に合わせて読経する姿に出会いました。曹溪宗は、日本でいうと「臨済禅」だとか。曹溪宗の僧侶の方に聞きますと、「①現世利益、②祖先崇拜、③世界の人々の幸せ（平和）」を願っての礼拝だとか。「世界の人々」の言葉に感銘させられ、「念仏の声を世界に子や孫に」が思い出されたことでした。

「世のなか安穩なれ」、一体、私に何が

出来るかを考えながらも、龍谷顕真会の海外視察研修も、小さな営みですが、その一助ではないかと「一人よがり」をしている私でした。



曹溪寺にて

第十四回海外視察に参加して

阿弥陀寺 荒木 邦枝

海外視察も十四回目との事、早いのに驚きでした。さて、私にとって大好きなお隣国、韓国。食にしても、ショッピングにしても大好きな国、とても楽しく過ごすことができました。

旅する場所、寺院においても、隅々まで行き届いた整備にびっくりでした。建築物のある場所、常に規模も壮大。又山、自然に囲まれた仏教の奥深い思想が込められ、老若男女、どこの寺院に訪問しても人の多さに寺院を如何に大切にされているか、私にとって、心に恥ずかしさを感じさせられる思いで、もっと自坊に力を込めなければと反省いたしました。

参加された方々との和も深まり、又再び会える楽しみを持つことができました。

とにかく美しい国「韓国」という印象でした。



韓国独立記念館にて



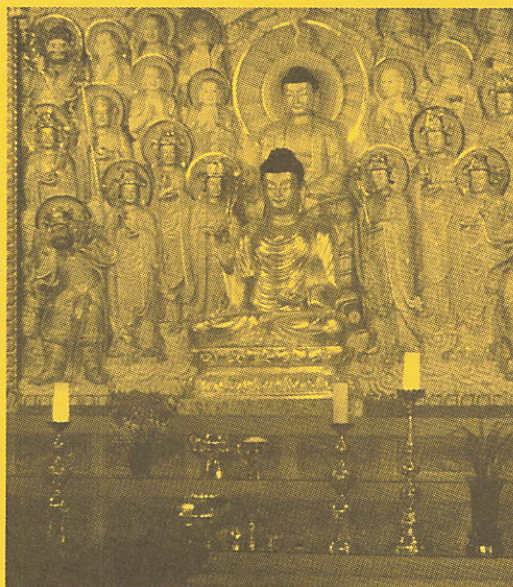
景福宮にて



東国大学にて



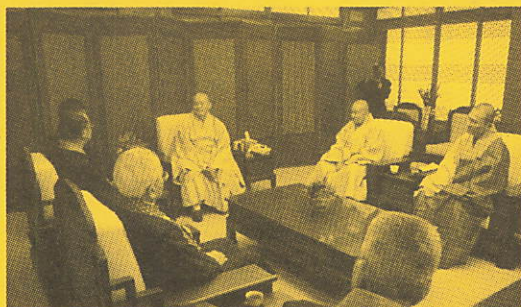
曹溪寺にて



佛国寺にて



曹溪宗 智冠総務院長より記念品を頂戴しました



ご挨拶



龍谷顕真会代表世話人

藤谷 光信

龍谷顕真会会員の皆様には、ご清栄のうちにお過ごしと思います。平素から龍谷顕真会の活動には、ご協力いただき感謝しています。

龍谷顕真会は、結成以来三十三年の月日が経ちました。ふりかえってみますと、既に故人となられた相生市議の三輪善海氏や、現在世話人で東員町議の山田真澄氏などのお世話で発足しましたが「龍谷顕真会」の命名は大谷光照ご門主様（当時）です。

私は、本願寺の教師教修の終了に際して教修者一同が大谷光照ご門主様（当時）

から「それぞれが自分のもっているものを活かして住職となり教化活動に尽くしてください」とのお言葉をいただきました。私はこの言葉を今も大切にしています。また、命名をいただきました「龍谷顕真会」も私の誇りとして過ごしてきました。

当初は二十名程でスタートしましたが、最盛期には百余名の会員となりました。しかし、近年は市町村合併の影響か会員が減少し、現在は賛助会員を含めて、四十三名です。

私共会員は、地方社会の声を本山に届け、また、本山に年に一度は上山して研修を受け、お念仏のみ教えを地方行政の中に活かしていこうと心がけて参りました。

主な活動として、海外の視察は十四回目を数え、また、近年は、国内の諸問題にも目を向け、沖縄の戦跡など、新しい視点から、仏教徒として、僧侶としての

深い想いの中で、勉強もいたしました。

こういった充実した内容のある活動についてはいささか自負もしていますが、これもひとえにご本山当局のご指導とご配慮の賜です。特に、総局公室へ渉外・広報の職員の皆様には、情報の収集や資料の精査など、難しい仕事もこころよくしていただき感謝しています。

私は発会以来「世話人」や「代表世話人」を務めさせていただきましたが、今年の四月で山口県議会生活に終止符をうちますので「龍谷顕真会」から去ることになりました。少し寂しい気もしますが、今夏に行われます参議院全国比例選挙にご本山の推薦のもとに立候補の準備をすすめています。今後ともよろしくご指導くださいますようお願いいたします。

これまでいただきましたご厚誼に心よりお礼申し上げ、皆様の今後益々のご活躍を期待して筆をおきます。

二〇〇六(平成十八)年度 活動報告

二〇〇六(平成十八)年

四月二十五日(火)

会 計 監 査

第一回世話人会

五月十九日(金)

第二回世話人会

総 会

【講師】高田慈昭師

(元開教総長・大阪教区 東住

吉組 慈光寺住職)

【講題】海外開教について

(南米を中心として)

五月二十日(土)

親鸞聖人降誕会法要参拝

二〇〇七(平成十九)年

一月十四日(日)

第三回世話人会

一月十五日(月)

御正忌報恩講参拝

一月二十九日(月)～二月二日(金)

第十四回海外視察

【開催地】韓国(ソウル・慶州・釜山)

会 員 動 静

【新入会員】

和田 秀教

会員(和歌山市議)

和歌山・和歌山北・正光寺衆

徒

佐藤 哲紹

賛助会員(元湯布院町長)

大分・由布院・長因寺住職

寄贈誌のご紹介

高島市議会議員 大塚泰雄

▼高島市議会議員 大塚泰雄 後援会だより

『ふれあい』第二十一号(平成十八年十月発行)

・第二十二号(平成十九年二月発行)

山口県議会議員 島田 明

▼『また明 山口県議会だより』第四十七号(平

成十八年十一月一日発行)

事務局より

「二〇〇七(平成十九)年度総会」について

二〇〇七年(平成十九)年五月二十二日(火)

《開催予定》

「二〇〇七(平成十九)年度総会」は、本年も宗祖親鸞聖人降誕会に併せての開催を予

定いたしております。総会前日の二十一日(月)には法要参拝ならびに飛雲閣でのお茶席のご案内、また、懇親会がございます。会員の皆様におかれましては、どうぞご出席賜りますようご案内申し上げます。

会費・特別会費納入のご依頼

年会費 五、〇〇〇円(普通会員)
 二、〇〇〇円(賛助会員)
 特別会費 一〇、〇〇〇円(当選年次)
 会費・特別会費未納の方は、事務局までご連絡の上、ご納入下さいますようお願いいたします。ご不明の点がございましたら事務局までご連絡下さい。

新会員勧誘のお願い

地方自治体の首長・議員に公選された宗派の僧侶の方で、本会に未加入の方をご存知でしたら、加入ご推奨いただくとともに、事務局までご連絡下さい。

公職選挙宗門推薦について

今後、選挙の施行があり立候補を予定されている方は、宗門推薦をいたしますので事務局までご連絡下さい。



龍谷顕真会ホームページアドレス <http://www2.hongwanji.or.jp/r-kenshin/>

ホームページ開設について

龍谷顕真会ホームページを開設いたしました。活動内容等掲載いたしておりますので、是非ご覧下さい。また、ホームページを開設されている方には、リンクをさせていただきたいと存じます。事務局までご連絡下さい。

『龍谷顕真会会報』(第二十五号)

二〇〇七(平成十九)年三月発行

【編集・発行】

浄土真宗本願寺派

総局公室〈渉外・広報担当〉内

龍谷顕真会事務局

八〇〇一八三五八

京都市下京区堀川通花屋町下る

浄土真宗本願寺派宗務所内

電話(〇七五)三七一一五一(代)

事務局長 中村 澄枝
 事務局員 宮川 善裕

秋田 浩紀
 上久保 擁子
 遠山 まゆみ